cies *Aster kantoensis*. Ecol. Res. **13**: 141–149.
59. Inoue K.., Katsuyama T., Takahashi H. and Akiyama. M. 1998. Recently rediscovered type materials of orchids described by Dr. Fukuyama and Dr. Masamune. J. Jpn. Bot. **73**: 199–230.
60. 今井建樹，井上　健．1999．カイサカネラン再発見される．植物分類地理 **49**: 197–199.
61. Kobayashi S., Inoue K. and Kato M. 1999. Mechanism of selection favoring a wide-tubular corolla in *Campanula punctata*. Evolution **53**: 752–757.
62. 井上　健．2000．ポリネーターへの適応とは？種生物学会編，『花生態学の最前線』文一総合出版．
63. Sugiura N., Fujie T., Inoue K. and Kitamura K. 2001. Flowering phenology, pollination, and fruit set of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense*, a threatened Lady's Slipper (Orchidaceae). J. Plant Res. **114**: 171–178.
64. Inoue K. 2001. Recent status of orchids in "SATOYAMA" area. Grobal Environ. Res. **5**: 163–168.
65. Oiki S., Kawahara T., Inoue K., Ohara M. and Maki M. 2001. Random amplified polymorphic DNA (RAPID) variation among populations of the insular endemic plant *Campanula microdonta* (Campanulaceae). Ann. Bot. **87**: 661–667.
66. Sugiura N., Inoue K. and Gooubara M. 2002. Notes on the pollination of *Cypripedium macranthos* var. *speciosum* and *Dactyorhiza aristata* (Orchidaceae). Acta Phytotax. Geobot. **53**: 85–88.
67. Otsuka K., Watanabe R. and Inoue K. 2002. A new species of *Symplocarpus* (Araceae) from Nagano Prefecture, central Japan. J. Jpn. Bot. **77**: 96–100.
68. Inoue K. and Yukawa T. 2002. A new species of *Yoania* (Orchidaceae) from southern Nagano, central Japan. Acta Phytotax. Geobot. **53**: 107–114.
69. Sugiura N., Goubara M., Kitamura K. and Inoue K. 2002. Bumblebee pollination of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense* (Orchidaceae); a possible case of floral mimicry of *Pedicularis schistostegia* (Orobanchaceae). Pl. Syst. Evol. **235**: 189–195.
70. 井上　健．2003．ランの自然史. 学際 **8**: 38–41.
71. Miyake T. and Inoue K. 2003. Character displacement in style length between pollinator-sharing *Clerodendrum trichotomum* and *C. izuinsulare* (Verbenaceae). Plant Syst. Evol. **243**: 31–38.
72. 井上　健．2003．アツモリソウ，ホテイアツモリソウ，レブンアツモリソウ，キバナノアツモリソウ，カラフトアツモリソウなど（ラン科の絶滅危惧種69種）『レッドデータプランツ　絶滅危惧植物図鑑』山と渓谷社．
73. Funakoshi H., Kress W. J., Skornickova J., Liu A. Z. and Inoue. K. In press. Return from the lost: rediscovery of the presumed extinct *Leptosolena* (Zingiberaceae) in the Philippines and its phylogenetic placement in gingers. Acta Phytotax. Geobot. **55**.
74. 井上　健，横田昌嗣，中島睦子．2004（出版予定）．『日本ラン科図譜』文一総合出版．

新　刊

□宮城植物の会編：**宮城県植物目録 2000** 378 pp. 2003．宮城植物の会．非売品．

宮城県の植物目録は村井三郎氏が1935年に発行して以来，刊行されていない．その後学名の変更や，区域内の植物相の調査の蓄積があり，新しい目録の発行が必要とされてきた．この目録はその要求を満たすものである．蘚苔類631種，シダ類221種，裸子植物27種，被子植物982種，全体で3032種が記録されている．宮城県を５地区に分け，各種類が地区のどこに分布するかを地名で示している．宮城植物の会は「植物誌」を発行するのを目的として1988年に発足したもので，現在は木村中外氏を委員長に，他11名の委員からなり，協力して目録を制作し発行した．宮城県は太平洋側に分布する植物の北の限界近くを示すものが多いので，貴重な目録である．なるべく早く，初期の目的である「植物誌」が完成されることを希望する．宮城県植物の会は石巻市[redacted] Tel [redacted]

（山崎　敬）

□大場秀章，秋山 忍：**ツバキとサクラ** 171 pp. ￥2,100. 2003．岩波書店．

「海外に進出する植物たち」という副題がついている．二部に分けてこの二つの植物の自然誌にはじまり，その栽培，園芸植物としての海外進出，それが海外の文化に与えた影

響などが述べられている．ツバキは海外でブームをおこしたが，サクラは日本人の思い込みほどには行き渡っていないという．最後は著者らと編集企画者の林　良博，武内和彦両氏による座談会で，本文の内容を敷衍している．本書は現代日本生物誌12巻の一つで，毎巻二つの生物（たとえばカラスとネズミ）をとり上げ，彼らの生きざまを副題の観点から見直すものである．植物関係では「タンポポとカワラノギク」,「マツとシイ」,「イネとスギ」,「ネコとタケ」,「サンゴとマングローブ」,「メダカとヨシ」,「マングースとハルジオン」がある．（金井弘夫）

□大場秀章，望月賢二，坂本一男，武田正倫，佐々木猛智：**東大講座　すしネタの自然史** 284 pp. ￥1,500．2003．日本放送出版協会．

独立行政法人となった大学では，社会一般へのアッピールのために，以前にくらべていろいろな行事を行うようになった．学術講座は以前からあったが，本書ではもっとくだけた内容を目ざしている．

5章に分かれていて，1. はすしの歴史と植物関係のネタ，2. が淡水魚と赤身のネタ，3. がその他の魚ネタ，4. が甲殻類とウニやホヤ，5. が貝類など軟体動物に当てられ，それぞれの専門家が蘊蓄を披露している．時節がら，環境や移入生物の問題も各所にちりばめられている．くだけたはなしを目ざしていてもそこは専門家揃いなので，内容はかなり高度なものがあるが，別に通読せねばならないたちの本ではないので，好きなところを拾い読みすれば話のネタをいろいろと仕込むことができるだろう．

一通り見て気付いたのは，ササやハランまで話題にされているのに海苔がとり上げられていないことである．続編として海苔，シャリ，醤油，茶，割り箸はどうだろうか．

（金井弘夫）